



# 特集 温もりあふれる市民の台所 「盛岡神子田朝市」の今。

雪がちらつく早朝、いつも通りに営業スタートする「神子田朝市」

市民の台所として知られる「盛岡神子田朝市」。地元でとれた新鮮な農作物を購入できると共に、昔ながらの温かな雰囲気の人気です。ここ数年で新たな店舗も加わり、よりパワーアップした神子田朝市を訪れました。

## 市民の台所として半世紀以上

早朝5時30分。盛岡市神子田町の「神子田朝市」では、出店者が少しずつ品物を並べ始めていました。農作物生産者を中心に100名以上の組合員が軒を連ねる同朝市は、年間300日も開催される全国でも珍しい朝市。近隣住民はもちろん観光客にも人気のスポットです。

神子田朝市の始まりは、旧都南村津志田の盛岡市中央卸市場開設がきっかけでした。同市場開設に伴い、南大通の盛岡市中央青果外郭にあった生産農家の直売所が立退を迫られたとのこと。盛岡市内に生産農家直売所を存続させるため、各地域の有志が集まり、生産農家主体の組合を結成。昭和43年11月に、南大通で朝市がスタートしたのです。当時は、商品をリヤカーで搬入したまま売っていたことから「盛岡地区生産者立売組合」という名称になったそうです。時代の変遷に伴い販売スタイルや出店者も変わってきたこともあり、この春から組合名を「盛岡神子田朝



部活前の腹ごしらえに立ち寄った地元高校生たち。市民の台所としてのポジションは変わらず継承しています

市」に変更しました。

取材に訪れた3月は、季節が逆戻りしたような雪模様。しかし、スピーカーからは、「おはようございます」と元気なアナウンスが流れ、その日の出店者やおすすめの商品が紹介されていました。6時を過ぎると、徐々にお客さんの姿が増え、めあての店先に並ぶ姿も。季節の野菜や果物、花苗、漬物、山菜やキノコ、惣菜や餅、衣料品、コーヒーやラーメンといった従来の出店者に加え、週末限定のスイーツ販売や美容室まであり、「神子田朝市」は、新しい流

れが生まれています。

## コロナ禍を機に 新店舗もオープン

そのきっかけの一つが、コロナ禍のテレビ取材でした。組合長理事を務める吉田晃さんが当時を振り返ります。

「コロナ以前から、組合員の高齢化が課題となっており、毎年何人か減っていく状況でした。私が会長を引き継いだ2020年3月時点で組合員は106名ほど。朝市開設当初は527名もいたそうですが、それから半世紀を経て、組織や仕組みを立て直す必要を感じていた矢先のコロナ禍でした。」

吉田さんの実家も昔からの組合員。幼少期から母親と一緒に来ていたこの場所に「かつてのような活気を取り戻したい」という思いがありました。

「まずは、店の数を増やさなきゃ



店舗や商品紹介の場内アナウンスも、吉田晃会長が自ら務めて盛りあげます

いけなかった。コロナ禍の様子取材に来たテレビ放映に出店者募集集中のテロップを入れてもらったんです。すると、コロナで営業できない店舗からたくさんのお出店希望があり、いろんなジャンルの店舗が増えていきました。」

週末限定で出店する川村商店もその一つです。店主の川村浩さんは神子田から近い東仙北町に家があり、幼い頃から親と一緒に野菜や唐揚げを買いに来ていたそうです。ちょうど無店舗で独立起業を検討していた頃、神子田朝市にスイーツを売っている店がなかったことから、「出店できたら面白い」と考えました。

お客さんの声を聞き、商品をづくりに生かす川村さん。人気商品のパンナコッタは年間35種類もあり、盛岡神子田朝市限定のプリンやマドレーヌをつくるなど、さまざまな工夫を凝らしています。

「長年菓子製造業に従事してきましたが、お客さんと対話できるのが何よりの喜び。朝市の出店を機に、近郊農家さんとのつながりも生まれました。そのおかげで完熟の甘味あふれた果物が手に入るようになり、手頃な価格でおいしいスイーツを提供できています。」

2020年6月に無店舗スイーツ店としてオープンした川村商店。イ



「SNSでいただくお客さんの感想が励みになっています」と川村浩さん

チゴ、サクランボ、リンゴ、シャインマスカット等果物をはじめ、卵やミントなどを盛岡近郊の生産者から最もおいしい状態で仕入れ、よりリーズナブルにお客さんへ届けることをモットーにしています。

同店のスイーツ購入をきっかけに初めて朝市を訪れるお客さんも多く、顧客拡大に一役買っています。

## 古き佇まいを大事に

コロナ禍から抜け出した昨年はニューヨークタイムズのニュースが良いい効果となり、5月から県外客が増加。外国人のツアー客も多くなり、お土産用に用意したエコバッグが好評でした。最も混んだ8月13日は、約4000名が訪れたそうです。

昨年はクラウドファンディングを活用し、マスコットキャラクターの「あさどりくん」のリニューアルプロジェクトにチャレンジ。もうすぐ新しい装いでお目見えの予定です。



川村商店のブースは行列ができるほど人気で、最短15分で売り切れる日もあるそう

たくさんのお客さんの応援に感謝する吉田さんですが、寄付を超えた反響の大きさを感じており、変化はしつつもこの昭和感が大事だと話します。

「朝もやの中、トタン長屋の煙突から煙が出ているこの佇まい、全国を見渡しても珍しいと思います。建物には古いながら、覗いてみると今風の食べ物や販売していたり、そんなギャップを楽しんでいただきたい。古くなっていますが、この建物群をすごく大事にしたいなと思っています。何より農家さんあつての朝市です。新しい農家の出店も待っています。」

人やモノが緩やかに行き交う風通しのいい「盛岡神子田朝市」。盛岡らしさの一つとして多くの方に案内したい場所です。